

海っ子 通信

2021

UMIKKO NO MORI NEWS LETTER



今年度の取組み

2021年度の活動もコロナ禍で参加者限定となりました。今年度はクリスマスチャリティーのご寄付を活用して、ホテル従業員様が作成したワカメのクリスマスリースに



イルミネーションをつけ、宿泊棟から見える湾内に海中展示しました。みなさまに関心を持っていただき、ブルーカーボンで注目されている海藻や海の生き物たちを守ることに少しでも役立てられたらと考えています。

手作り堆肥製造マシン



私たちは、海の未利用資源を農業に活用するための工夫として、今回は堆肥製作にチャレンジしました。しかし、堆肥作りには通常数か月かかるため、農家さんから教わった方法(加熱と攪拌)を採用し、昨年度から始めている太陽の熱で発酵が促進され手回しで攪拌し3日程で堆肥を作ることができる、手作り堆肥製造マシンの試作機第一号が完成しました。(詳しくはHPのSDGsの取り組みで)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

TOTO 水環境基金 活動報告

コロナ禍で、TOTOのみなさまの参加ができない状況が丸2年続きましたが、密にならない方法により活動を行いました。具体的には海岸漂着資源(海藻)の収集とその堆肥化を行いました。また毎年恒例となった海藻・貝殻肥料を使って育てた安納芋と枝豆の収穫祭を行い、家族ぐるみの活動に広げることができました。



岩尾博士の

チューモク海藻

フクロフノリを紹介したい。



マフノリと合わせて乾燥品は汁の身として人気がある海藻の一つである。また漆喰や土壁の糊としても

も古くから利用されている。三重県でも鳥羽以南にはよく見られる海藻であるが、実は生物分類上、本当のフクロフノリは東北地方より北に生育するものを指し、それ以南のものは2,3種を含む別のフノリの仲間であるという。ともかく、このフクロフノリ、1月ごろから波しぶきが当たるような干上がりやすい岩礁の浅い部分に群落を作る。フノリは紅藻という赤い色素を持つ海藻の仲間であるが、この仲間は海水中の栄養素の多い少ないの影響がその色合いによくあらわれる。栄養が豊富であれば濃い紅色をしていることが多く、栄養が少なくなればオリーブ色のような色になる。もちろん、それ以外に温度や潮流、光の当たり方なども影響するが、僕はこの時期、海面から顔を出すフクロフノリの色を見て、海の栄養素のことに思いを馳せたりする。